

①教職課程コアカリキュラム対応表(一覧)

教職課程コアカリキュラム対応表(一覧)

大学名	札幌大学
学部・学科等名	地域共創学群人間社会学域 日本語・日本文化専攻、歴史 文化専攻、法学専攻、スポ ーツ文化専攻、英語専攻、経営 学専攻情報経営コース、経営 学専攻経営・会計コース

【中学校・高等学校】

<各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) 中学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
	各教科の指導法(国語)	国語科指導法Ⅰ 国語科指導法Ⅱ 国語科指導法Ⅲ 国語科指導法Ⅳ		
	各教科の指導法(社会)	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ 社会科・地理歴史科指導法Ⅱ 社会科・公民科指導法Ⅰ 社会科・公民科指導法Ⅱ		
	各教科の指導法(保健体育)	保健体育科指導法Ⅰ 保健体育科指導法Ⅱ 保健体育科指導法Ⅲ 保健体育科指導法Ⅳ		

<各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) 高等学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
	各教科の指導法(国語)	国語科指導法Ⅰ 国語科指導法Ⅱ		
	各教科の指導法(地理歴史)	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ 社会科・地理歴史科指導法Ⅱ		
	各教科の指導法(公民)	社会科・公民科指導法Ⅰ 社会科・公民科指導法Ⅱ		
	各教科の指導法(保健体育)	保健体育科指導法Ⅰ 保健体育科指導法Ⅱ		
	各教科の指導法(情報)	情報科指導法Ⅰ 情報科指導法Ⅱ		
	各教科の指導法(商業)	商業科指導法Ⅰ 商業科指導法Ⅱ		

※ 中学校・高等学校「外国語(英語)」に係る事項は「外国語(英語)コアカリキュラム対応表」に記載すること。(本表には記載不要。)

<教育の基礎的理解に関する科目等>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育入門		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論		
	道徳の理論及び指導法	道徳教育論		
	総合的な学習(探究)の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法		
	特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法		
	教育の方法及び技術	教育の方法及び技術(ICTの活用を含む)		
2.4	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論	生徒指導論	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談		
3.5	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導論	進路指導論	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育の方法及び技術(ICTの活用を含む)		
	教育実習	教育実習(中高)	教育実習(高)	

②教職課程コアカリキュラム対応表

生徒指導の理論及び方法

全体目標: 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

(1)生徒指導の意義と原理

一般目標: 生徒指導の意義や原理を理解する。

- 到達目標: 1) 教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。
 2) 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。
 3) 集団指導・個別指導の方法原理を理解している。
 4) 生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解している。

(2)児童及び生徒全体への指導

一般目標: すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。

- 到達目標: 1) 学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。
 2) 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。
 3) 児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。

(3)個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導

一般目標: 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

- 到達目標: 1) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。
 ※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。
 2) 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。
 3) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。

生徒指導の理論及び方法	項目	(1)				(2)			(3)		
	到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	1)	2)	3)	1)	2)	3)
授業科目名及び授業回（シラバスのページ番号）	生徒指導論	1	○		○						
		2	○	○	○						
		3			○						
		4									○
		5								○	
		6								○	
		7					○	○	○	○	
		8									

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

